

うちと讀まするが如し、山城の井堤又井手、或は堰堤に作る、これも井里なるべし、

〔御府内備考御曲輪内〕飯田町麴町邊町名、井里俗呼名

元飯田町、里俗呼名、中坂、中通りを云、もちのき坂北裏通りなり、麴町一丁目 麴町二丁目 麴

町三丁目 麴町四丁目 麴町五丁目 麴町六丁目、里俗呼名、善國寺谷、五丁目六丁目横町を云、

麴町七丁目 麴町八丁目 麴町九丁目、里俗呼名、藥師横町、北横町と云、麴町拾丁目、里俗呼

名、成瀬横町、北横町を云、麴町平河町一丁目 麴町平河町一丁目續教授所付町屋鋪 麴町平

河町二丁目、里俗呼名、蛤店又は肴店、麴町平河町三丁目、里俗呼名、けだ物店、麴町平河町三丁

目脇木挽町四丁目裏上納地替地、里俗呼名、麴町貝坂、

湯島三組町續拜領屋鋪切地代地 湯島龜有町代地、麴町山元町、里俗呼名、わら店、平河町一丁目

之方表通を云、材木店、平河町二丁目三丁目の方を云、麴町隼町、里俗呼名、だるま門前、赤坂御門

内を云、麴町谷町、里俗呼名、三丁目谷、四丁目谷、清水谷、八丁目、南横町を云、三軒屋平河天神前通

り元山王の内なり、麴町龍眼寺門前 永田馬場山王門前略○中

以上記す町名及里俗呼名は、下谷山崎町名主藤八が藏する、文政四年改定の町鑑に據て編録す、

〔新編江戸志一〕飯田町

求涼雜記云、往古は千代田村と云て、田安に續く田畑也、御入國の時、初て田安邊へ御成の時、此所

の里民を召させられしに、其砌は民家十七軒ならではなく、皆々田畑へ出て、只飯田喜兵衛と云

者壹人罷出て、所の巨細をも申上ければ、此以來此所の名主たるべきよし命せられ、此所を飯田

町と呼ぶべしと也、

〔燕石襟志三〕わがをる町

今もちの木坂と唱るは、舊名万年坂なるよし、古老いへり、寛永中の地圖を按ずるに、町家は今九